

平成 27 年度第 5 回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

1 開催日時

平成 28 年 2 月 19 日 13 時 30 分～15 時 15 分

2 開催場所

盛岡市内丸 13 番 1 号

岩手県民会館 第 3 会議室

3 議事

「地方独立行政法人岩手県工業技術センター第 3 期中期計画について」

4 出席者

(1) 岩手県地方独立行政法人評価委員・専門委員

西崎滋委員（委員長）、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、加藤碩一専門委員

(2) 地方独立行政法人岩手県工業技術センター

小田島智弥理事長ほか岩手県工業技術センター職員

(3) 事務局（県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興課）

高橋喜勝商工労働観光部ものづくり自動車産業振興課総括課長ほか商工労働観光部商工企画室・商工労働観光部ものづくり自動車産業振興課職員

5 議事要旨

【事務局】

本日は、委員・専門委員の 6 名のうち室井委員が欠席ですが、5 名の皆様にご出席いただき、過半数を超えていますので、「地方独立行政法人法施行条例第 6 条第 2 項」に基づく委員会を開催するために必要な定足数を満たしていることをご報告いたします。

【西崎委員長】

まず、本日の委員会の公開の取扱いについてお諮りします。

「岩手県地方独立行政法人評価委員会運営規程」に基づき、本日の会議の内容を公開で進めさせていただくことを提案しますが、よろしいでしょうか。

（一同 異議なし）

【西崎委員長】

では、本日は公開ということで進めさせていただきます。

議事

【西崎委員長】

それでは、議事「地方独立行政法人岩手県工業技術センター第3期中期計画について」事務局より説明願います。

【事務局】（資料1により説明）

【工業技術センター】（資料2～4により説明）

【西崎委員長】

ありがとうございました。それでは、ご質問ご意見を願います。

【加藤専門委員】

技術支援の件数など、他県とのデータの比較もしたうえで、これまでの実績にプラスαの数値目標を設定されています。数値目標化を図るといのは世の中の流れに沿っており結構なことだし、併せて満足度という質の評価も行っており妥当な目標設定と考えます。

ただし、短期的な数値の向上にとられ質の低下にならないよう、特に、三次元のものづくりやロボットなど非常に進捗の速い分野については、既に民間が開発しているものを後追いで件数をあげるようなことがないよう、毎年目標の見直しを行う必要があります。

満足度について、アンケートの様式は一定のものとなっていますか。

【工業技術センター】

基本的なことは変えず継続して行っています。自由記載欄も重視し、不満の事項があれば原因を調査し改善につなげています。

【西崎委員長】

技術ロードマップについては、見直しを行っていますか。

【工業技術センター】

これまでも見直しを行っていますが、中期目標期間が終わる今回が節目となることから、重点的に見直し、その後は年ごとにローリングしていきます。

【西崎委員長】

施設整備の中長期的に対応することとなっていますが、既に計画を立てて予算を組んでいるのですか。

【工業技術センター】

一度検討した経緯がありますが、県との協議の中で必要性を精査することとし、もう一度将来を見据えて検討し、設置主体の県と協議をしながら計画を策定します。

【西崎委員長】

測定装置など、性能を保つのもコンプライアンスの一環であり、計画的に維持する必要があると思いますがいかがでしょうか。

【工業技術センター】

測定機器に関しては、定期的に点検し、必要な整備を行っています。建物については中長期的な計画を作ったうえで、実施に当たってはその都度県と協議する必要があります。

【西崎委員長】

外部資金の獲得の目標について、一人当たりの獲得額は他県と比べても高いということは分かりました。獲得額は他者との競争など周りとの関係により変わるとは思いますが、外部資金への申請率は数値目標を設定できませんか。

【工業技術センター】

復興支援に係る実用化研究に注力しシーズを吐き出したという状況にあり、外部資金の獲得額が減少しています。目標は年度計画に盛り込み、現状の3千万円から年次的に上向かせ、5年後には1億円を目指したいと考えています。しかし、企業負担がどの程度必要かなど、外部資金の制度によるところもあり、現段階で具体的な目標値の設定は難しいと考えています。

【西崎委員長】

小学生中学生高校生を対象として、ものづくりへの興味を喚起するなどの貢献を考えているようですが、大学生のインターンシップの受入れも考えていますか。

【工業技術センター】

大学生のインターンシップ受入れは現在も行っており、目標としては「技術人材受入れ研修件数年間15件」の中に含めています。

【西崎委員長】

県内の大学が連携し、「COC+」という学生の地元定着を促進する事業に取り組んでいますが、学生が地元企業を知る機会がもっと必要と思います。県とタイアップして取組を進めていくことになっていると思いますので、センターもご協力願います。

【工業技術センター】

先ほどの加藤専門委員のご質問への補足になりますが、現在3つのプロジェクト、一つは金属3Dプリンタを導入しましたことから三次元のものづくり、もう一つはロボット、そして食品関係につきましては発酵関係のテーマに取り組んでおります。評価に当たっては件数的なものではなく、どのように成果をあげていくのか、内部の議論だけではなく、外部の先生方のご意見をいただくなど、プロジェクト型の評価ができるような体制をつくって進めていきたいと考えています。

【加藤専門委員】

いい技術でも初期投資が大きいと受け入れられないので、ニーズの把握とマーケットリサーチをしっかりと行う必要があります。

【加藤専門委員】

成果報告件数の目標を設定していますが、外部資金による研究が増えると、企業の秘密保持に配慮する必要があることから、外部発表が制限されることがあります。外部資金の獲得と外部発表は逆相関の関係にあるので両面を見ながら管理する必要があります。

【恒川委員】

沿岸被災地では、復興特需のため高校に進学しなくても仕事がある、中退して建設工事に携わるということが増えており、問題となっています。5年、10年先には特需もなくなり、20年後には機械化が進み、今ある仕事がなくなってしまうかもしれません。インターンシップなどで、新たな技術開発に取り組んでいるセンター職員の存在を見せるなど、子供達の意欲を引き出すような活動を続けてほしい。

また、用語のことですが、行政機関などでよく「戦略的」という言葉を使っています。岩手県は自殺者も多く、中には生きるか死ぬかという状態で暮らしている人もいます。公的機関が「戦略」というような言葉を使うと、そのような方々の気持ちを逆撫でするように感じました。

【工業技術センター】

一点目のインターンシップ等については努力していきます。二点目の用語のことにつきましては、中期目標に沿って計画案を作成しているため工業技術センターとしては変更できませんが、全体的な議論を待ちたいと思います。

【下田委員】

事業の効率化のところですが、業務経費が前年度比1.5%、一般管理費が1.0%の効率化となっていますが、基準年はいつになりますか。

【工業技術センター】

中期目標期間の第1年目の平成28年度が基準になります。その後4年間各年度の効率化の目標になります。

【下田委員】

平成28年度は平成27年度から1.5%、1.0%の減となっているのですか。

【工業技術センター】

第3期中期目標期間のスタートに当たり県と協議し決め直しており、平成28年度は平成27年度と同じくらいの予算額となっております。

予算を減らさないことも検討しましたが、県全体が厳しい中、工業技術センターだけ特別というわけにはいきません。しかし、他県等の独立行政法人とも比較のうえ、効率化の率につきましては、第3期は第2期よりも低くなっています。

【下田委員】

削減できない固定費もある中での効率化は苦しいと思いますが、全体の状況は理解しました。

【工業技術センター】

収入を上げる努力もしながら、先ほど説明しました第2期から第3期への目的積立金もありますので、これをうまく活用して業務を進めていきます。

【工藤委員】

工業技術センターは具体的数値目標を設定して業務を進めている印象がありますが、更に項目を細かくし、目標値についても実績を見て現実的なものとなっています。

今後につきましては、まだ工業技術センターを利用していない企業もあると思いますので、よりPRに努めていただきたいと思います。金属3Dプリンタを導入されたということですが、企業により利用方法が異なるかもしれませんのでより多くの分野の企業に広めてください。

【工業技術センター】

企業毎にセンターの利用方法も異なると思いますので、それぞれの立場に対応できるよう工夫していきます。

【西崎委員長】

資金計画で「投資活動による支出」とありますがどのようなものですか。

【下田委員】

固定資産の取得による支出でしょうか。

【工業技術センター】

固定資産の取得相当額で、例えば目的積立金で購入した資産が該当します。

【西崎委員長】

予算の「運営費交付金」と収支計画の「運営費交付金収益」が異なるのは何故ですか。

【工業技術センター】

「運営費交付金収益」は「運営費交付金」から「固定資産取得相当額」が引かれた額になります。

【加藤専門委員】

マイナンバーのセキュリティについて外部に委託されますか。

【工業技術センター】

独自に管理していきます。セキュリティについては社会的に問題になっておりますが、新たにダイヤル錠付きの保管庫を購入いたしまして、担当する者も特定の職員に限定して対外的に情報が漏れない形で運用します。

県全体として検討しており、工業技術センターもそれに加えてもらっています。県に準じた形で間違いのない処理をしようと仕組みを考えております。

【西崎委員長】

人口問題など県政課題への対応についてはどのように考えていますか。

【工業技術センター】

工業技術センターの役割は産業振興であり、企業に雇用の力をつけていただくことが第一と考えています。例えば、少ない人数でも同じ成果をあげられる仕組みを作っていただくため、チームをつくって沿岸の水産加工業へ生産性向上の支援を行う取組などを行っています。ロボット化

も生産性向上につながります。

【西崎委員長】

技術支援業務と研究開発業務の適切なバランスをどのようにして取ろうと考えていますか。

【工業技術センター】

6対4又は7対3で技術支援業務に重きを置いています。第2期については復興支援のため技術支援のウェイトが高かったのですが、第3期は研究開発のウェイトを戻していきます。それが企業の力に、雇用の力につながるとよいと考えています。

【加藤専門委員】

研究者のライフスパンによっても異なります。若手で技術シーズ開発に集中する時期もあり、ベテランになって企業から頼られる時期もあり、全体としては技術支援の割合が6割から7割ということではよいのではないのでしょうか。

【工業技術センター】

個々の研究員の役割については部長がマネジメントすることになります。

【下田委員】

予算、収支計画、資金計画について、第2期の実績が知りたいのですが、中期計画に記載出来ませんか。

【工業技術センター】

計画を立てるにあたっては第2期の実績を踏まえています。第2期と言っても、平成27年度分はまだ出ていませんので、4年間の実績ですが、例えば自己収入であれば各年度の特殊要因を除いて4年間の平均を基にして立案しております。

【恒川委員】

工藤委員の意見に近いですが、今現在支援している企業とは別の分野への支援も必要と思います。所属のNPO法人では学校現場との接点がありますが、先生方は社会の変化や技術の進歩について情報を得る機会が少ないと感じます。アプリの開発など20年前にはなかった仕事に若者が就くようになりましたが、学校の先生がそのような技術に触れる機会など、今までにないところとのつながりもつくっていただきたい。

【工業技術センター】

わかりました。

【西崎委員長】

他にご意見等ありますか。

ないようですが、本件につきましては、会議資料にあります「意見照会票」で意見を事務局に送るということで、事務局よろしいですか。

【事務局】

はい、2月26日金曜日までにご意見をいただきたいと存じます。

【西崎委員長】

それでは、以上をもって議事を終了いたします。